

ヤシの木先生のQ&A

— 健診「けんしん」と 検診「けんしん」のはなし ② —

登場人物紹介



ヤシの木先生

職業：医師
趣味：愛猫とのふれあい（最近は爪を立てられるのが悩み）



ココちゃん

職業：会社員
趣味：旅行（ビーチリゾートでのんびりするのが好き）



健診の項目について伺いましたが、
では、どんな病気に気をつければいいのでしょうか？

令和6年の死亡数を死因順位別にみると、
第1位は悪性新生物（がん）で38万4099人
第2位は心疾患（高血圧性を除く）で22万6277人
第3位は老衰で20万6882人、
第4位は脳血管疾患で10万2808人 となっています。



「三大疾病」という言葉はよく聞きますね。

特にがん（悪性新生物）は昭和56年以降ずっと死因の第1位で、高齢化とともに増加傾向にあります。



具体的には何がんが多いですか？

こちらは令和5年のデータですが、死亡数を部位別にみると、
男性が肺・大腸・胃・膵臓・肝臓
女性が大腸・肺・膵臓・乳房・胃 の順番になっています。



では、その辺を頭に置きながら、健康の健と書く「健診」と検査の検と書く「検診」のいろいろな疑問に迫っていきましょう！



では、まず頭からお願いします！
頭の検査には何がありますか？

頭の検査には、MRI 検査がよく用いられますね。



あの狭くてうるさい MRI ですか・・・。

最近では機械もだいぶマシになりましたよ。閉所恐怖症の方にも軽い安定剤を飲んでもらって検査をする施設があるようです。



脳 MRI の意義は、まず脳動脈瘤の発見にあるといってもいいと思います。脳には頸から 4 本の動脈が通っていて、そこから複雑に分岐します。ここに動脈瘤という「こぶ」ができると年 1～2%ではありますが突然破裂します。これが「くも膜下出血」で、若い方にも発症し、死亡や重大な後遺症を残すケースが半分以上ととても厄介です。



若くて寝たきりは考えたくないですね。

この「こぶ」を検診であらかじめ見つけ、定期的にフォローしておけばまずは一安心というわけです。



・・・次回は、がんの検査について紹介していきます！